

Since
1936

リコーのあゆみ

【トピックス】



1936 - 1969

創業～事務機分野進出

1970 - 1984

OA を提唱

1985 - 1999

デジタル化を推進

2000 - 2009

グローバルカンパニーへ

2010 - Present

新たなお客様価値の創造へ



お客様のワークスタイルの急速な変化に伴い、リコーの価値提供領域も大きく拡がりはじめました。2010年にはプロジェクションシステム事業に、2011年にはユニファイド コミュニケーション システム事業と3Dプリント関連事業に参入しました。2013年には全天球イメージを撮影可能な世界初*の画像インプットデバイスRICOH THETAを発売しました。またクラウドサービスと連携するさまざまな「ネットワーク アプライアンス」製品の提供など、お客様に新しい価値を提供し続けています。

* コンシューマー製品において、水平方向や半球だけでなく、撮影者を取り巻く空間全てをワンショットでキャプチャーできる点において（2013年10月時点。リコーイメージング社調べ）

リコーのあゆみ

<http://jp.ricoh.com/company/history/>

2010年4月

リコー経済社会研究所を設立

経済社会の将来動向と企業経営への影響を研究する「シンクタンク機能」と、その研究成果を基に経営陣に対して助言・課題提起を行う「アドバイザリー機能」を併せ持つ「リコー経済社会研究所(Ricoh Institute of Sustainability and Business)」は、刻々と変化する経営環境の背景にある経済社会の構造的変化を的確に把握すると同時に、企業自らの経営状況に照らし合わせた独自の分析をより強力に行います。



リコー経済社会研究所

関連サイト

ニュースリリース

http://jp.ricoh.com/release/2010/0325_1.html

公式サイト

<http://jp.ricoh.com/RISB>

2011年2月

ビジュアルコミュニケーション事業に参入

映像や音声等の多様な情報を統合して効率的に情報交換できるビジュアルコミュニケーション事業に参入。リアルタイム双方向通信や多拠点通信を可能にする最適なプラットフォームをクラウド上に構築し、インターネット経由で本社や支社間といった同一企業内はもちろん異なる企業間でもビジュアルコミュニケーションを可能にするテレビ会議/Web会議システム「ユニファイド コミュニケーション システム(UCS)」をはじめ、超短焦点プロジェクター、インタラクティブホワイトボード(IWB)など、ビジネスコミュニケーションを革新するさまざまなプロダクトを順次提供していきました。



リコー ユニファイド コミュニケーションシステム P3000

世界最小*1・最軽量*1の超短焦点プロジェクター I PStiO PJ WX4130N/WX4130

*1 ミラー反射式の超短焦点プロジェクターとして(2011年11月7日時点、リコー調べ)



ディスプレイの書き込みや遠隔地とのコミュニケーションも実現するリコー インタラクティブ ホワイトボード D5500

関連サイト

ニュースリリース

http://jp.ricoh.com/release/2011/0207_1.html

お知らせ

<http://www.ricoh.co.jp/ucs>

2011年10月

ペンタックスリコーイメージング株式会社* 発足

ペンタックスリコーイメージング株式会社は、この年10月1日付けでリコーの完全子会社として発足。従来のリコーのデジタルカメラ事業に加え、PENTAXブランドのデジタル一眼レフカメラや多彩なレンズ群等をラインアップし、コンシューマー向けの製品やサービスを強化しました。その後、2013年8月には、社名を「リコーイメージング株式会社」に変更し、今日に至っています。

* 現「リコーイメージング株式会社」



新会社発足を告知する広告



PENTAX デジタルカメラ

関連サイト

ニュースリリース

http://jp.ricoh.com/release/2011/1001_1.html

公式サイト

<http://www.ricoh-imaging.co.jp>

2013年10月

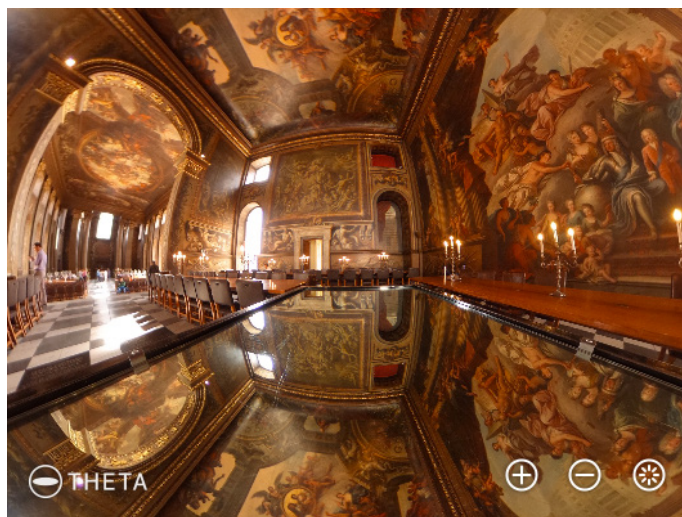
全天球イメージを撮影可能な世界初*の画像入力デバイス 「RICOH THETA」発売

「RICOH THETA(リコー・シータ)」は、一度シャッターを切るだけで撮影者を取り囲む全天球イメージを撮影することができる世界初*の画像入力デバイス。独自開発の超小型二眼屈曲光学系を採用することにより上下を含む真の全天球画像の撮影を可能にし、撮影者の意図や予測を超えた光景、斬新な全天球画像を世界の人たちと共有する楽しさを体感することができます。

* コンシューマー製品において、水平方向や半球だけでなく、撮影者を取り巻く空間全てをワンショットでキャプチャーできる点において。(2013年10月時点。リコーイメージング社調べ)



RICOH THETA



RICOH THETA で撮影した全天球イメージ

関連サイト

ニュースリリース

http://news.ricoh-imaging.co.jp/rim_info/2013/20131025_004259.html

商品サイト

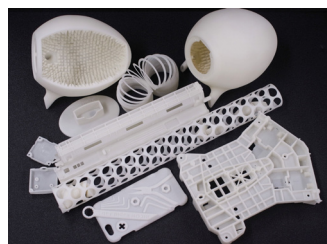
<http://theta360.com>

2014年9月

アディティブ・マニュファクチャリング事業に参入

3Dプリンターをキーとしたアディティブ・マニュファクチャリング事業(AM事業)に参入。

事業の第一弾として、ものづくりイノベーション拠点「RICOH Rapid Fab」を開設。3Dプリンターの仕入れ販売、3Dプリンター出力サービス、リコーの実践事例に基づくコンサルティング提案を展開し、順次グローバルに拠点を拡張していく予定です。日本における販売はリコージャパン株式会社が行っています。



3Dプリンターによる試作品



RICOH Rapid Fab (厚木事業所)



リコーブランド初となる3Dプリンター「RICOH AM 5500P」

関連サイト

ニュースリリース

http://jp.ricoh.com/release/2014/0908_1.html

商品サイト

<http://www.ricoh.co.jp/3dp/>

2015年3月

高精度・高速で3次元計測を可能にする産業用 ステレオカメラ「RICOH SV-M-S1」を新発売 (リコーインダストリアルソリューションズ)

リコーインダストリアルソリューションズ株式会社が発売した、対象物の形状を高精度かつ高速で3次元計測することができる産業用ステレオカメラ「RICOH SV-M-S1」は装置の「目」の役割を果たし、対象物を3次元計測することでシステムの自動化を可能とするカメラです。本製品は、リコー独自のキャリブレーション技術により、1m計測時に測距精度約±1mm(実測値)という高精度検出を実現させました。撮影から画像処理、視差演算までを全てカメラ内部で行うことでデータ処理速度が向上するため、30fpsの高フレームレートで3次元データを計測することができます。リコーではこのほか、FA (Factory Automation) カメラも多彩にラインアップしています。



RICOH SV-M-S1



FA カメララインアップ

関連サイト

ニュースリリース

http://jp.ricoh.com/release/2015/0319_1.html

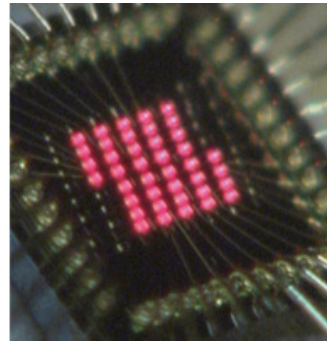
商品サイト

http://industry.ricoh.com/fa_camera_lens/sv-m-s1/

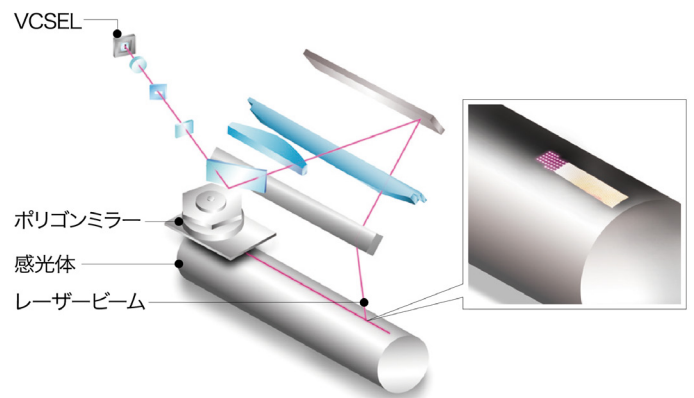
2015年4月

独自の VCSEL 素子開発により科学技術分野の 文部科学大臣表彰「科学技術賞」を受賞

40チャンネル面発光型半導体レーザーアレイ素子 (VCSEL: Vertical Cavity Surface Emitting Laser)を開発したリコー未来技術研究所技師長の佐藤俊一と、同研究所東北研究センターの軸谷直人が、平成27年度科学技術分野の文部科学大臣表彰において科学技術賞を受賞しました。このVCSELの搭載により、印刷物の多品種・短納期・小ロット化といった近年の新しい印刷(オンデマンド印刷)需要に応えられるプリンターが製品化されました。また不要な印刷物の出力を最小限に抑えられるという効果から地球環境保全にも貢献しています。



1mm²以下の面積に40の光源を配置したリコーの40チャンネルVCSEL



VCSEL 技術搭載で、1,200dpi x 4,800dpi の高画質を実現



科学技術賞表彰式

関連サイト

お知らせ

http://jp.ricoh.com/info/2015/0415_1.html

技術ページ

http://jp.ricoh.com/technology/tech/038_vcsel.html

2015年8月

地域社会の発展と成長に貢献する商業施設 RICOH Future House をオープン

RICOH Future Houseは、「人が集い、学び、成長する。そして未来を創造していく場」をコンセプトとした新発想の商業施設。通りに面した壁面は全面ガラス張りの地域に開かれた開放感あふれる4階建ての建物で、各フロアに子供たちが科学や技術を体験する学習エリア、知的好奇心に応えるイベント・セミナーエリア、まちとともに未来を創るワーキングエリアを配し、幅広い年代の方々がそれぞれの未来を見据えてご利用いただくことができます。また、カフェレストランやプリントサービス ショップなど気軽にご利用いただけるエリアもご用意しています。



RICOH Future House



子供向けの体験教室

関連サイト

ニュースリリース

http://jp.ricoh.com/release/2015/0716_1.html

公式サイト

<http://ricohfuturehouse.jp/>

2016年2月

「リファクス 600S」がでんきの礎（いしずえ）に選定される

1974年に発売したデジタルファクシミリ「リファクス600S」が、一般社団法人 電気学会 第9回でんきの礎として顕彰されました。

顕彰理由は、世界初の実用的国際間データ送受信を実現（A4サイズ1枚送信時間を従来の6分から1分に短縮）し、ファクシミリの普及に大きく寄与したこと。適用された符号化などデジタル技術が、国際標準化へつながるとともに複写技術と融合し現在のコピー、プリンタ、ファクス、スキャナー一体の複合機へと進化し、OA機器の発展とオフィス業務の革新的効率化に貢献したことによるものです。



リファクス600S



厚木工場で生産されるリファクス600S

関連サイト

ニュースリリース

http://jp.ricoh.com/release/2016/0204_1.html

公式サイト

<http://jp.ricoh.com/company/history/1970/rifax600s.html>

2016年3月

リコーグループの技術力を活かしヘルスケア事業に参入

高齢化社会への対応、医療費削減、地域間の医療水準格差解消などが求められるヘルスケア分野を、社会課題の解決に取り組む分野の一つとして位置付け、事業参入することに決定。その一環として、画像診断装置事業の事業展開・研究開発を加速するため、横河電機株式会社から2016年4月1日に脳磁計*事業を譲り受けました。

「ヘルスケアIT領域」「メディカルイメージング領域」「バイオメディカル領域」の3つを重点領域と定めて事業拡大を目指します。

メディカルイメージング領域では、脊髄や脳の神経活動を見える化する計測装置の開発・展開など、医療画像診断システム&サービスを展開します。

*脳の神経活動により生じる生体磁気を計測する装置



脳の神経活動を見える化する脳磁計



脊髄の神経活動の様子

関連サイト

ニュースリリース

http://jp.ricoh.com/release/2016/0314_1.html

公式サイト

<http://jp.ricoh.com/technology/institute/research/healthcare.html>

2016年4月

環境事業の創出・拡大を目指す リコー環境事業開発センター 開所

リコー環境事業開発センターは、創立80周年の記念事業の1つとして設立。本センターは、「リユース・リサイクルセンター」、「環境技術の実証実験の場」、「環境活動に関する情報発信基地」の3つの機能を併せ持っています。

「環境技術の実証実験の場」では、産官学連携のオープンイノベーションの手法を用いて、パートナーとともに進めることで、環境事業の創出を加速します。

リコーは90年代から環境保全と利益の創出を同時に実現する「環境経営」取り組んできました。この考え方をさらに進化させ、これまでの事業領域にとらわれない、より広い分野での環境事業の創出を行い、持続可能な社会の構築に貢献すべく、「お客様と共に進化する環境経営」を目指しております。



環境事業開発センター



資源循環を表したリアルコメットサークル

関連サイト

ニュースリリース

http://jp.ricoh.com/release/2016/0415_1.html

公式サイト

http://jp.ricoh.com/ecology/eco_business_center/